

図書館へ行こう

☎(295)1015

5月の休館日 毎週月曜日および4日(祝)～6日(振休)

貸出点数(貸出期限)

図書・雑誌・紙芝居など/1人10点まで(3週間)
ビデオ・CD・DVD・カセット/1人3点まで(1週間)

■本の紹介

『利休にたずねよ』

山本 兼一/著 PHP研究所/出版社

「己」の美学だけで天下人秀吉と対峙した男、千利休。その恋、そして死を描く長編歴史小説です。

～第140回直木賞受賞作品～



■子ども映画会

日時 5月9日(土)
午後2時～3時15分
定員 先着50人
内容 「親子ねずみの不思議な旅」

■おはなし会

日時 5月23日(土)
午後2時～2時30分
内容 おはなし、絵本の読み聞かせ、紙芝居など
対象 1歳児から小学生まで。小さなお子さんは、保護者同伴でご参加ください。

ほくらのキャンパス

323 光山小学校



4年 ひこくほなみ 彦久保七海さん



「早くこないかなクリスマス」



「にぎやかな生きものたち」



4年 松井 直貴くん



6年 原 陽子さん



「6月のある日 会いました」

児童館へ行こう

5月の休館日 毎週日・月曜日および6日(振休) ☎(295)4111

5月5日(祝)こどもの日は1日開館し、午後1時30分から午後3時30分まで、けん玉・コマ回し・ベーゴマ・竹とんぼなどの遊びのコーナーを開設しています。風車制作体験やポップコーンのプレゼントもあります。

■幼児クラブ

遊びを中心としたなかで、子どもの社会性とお母さんとのスキンシップを高めることを目的とした教室です。

日時 1班/5月26日(火) から毎週火曜日
2班/5月28日(木) から毎週木曜日
(各班とも午前10時15分から11時30分、全7回)
内容 体操、お絵かき、工作ほか
対象 3、4歳児(平成17年4月2日～平成18年9月30日生まれの子とその母親)
定員 先着15組(参加人数が少ない場合は、どちらかのコースに変更、または中止の場合があります)
申込み 4月28日(火)午前9時から児童館(電話可)

■遊びにおいでよ! ぴよんぴよん広場

日時 5月13日(水)、20日(水)
午前10時30分～11時30分
対象 2歳からの子とその保護者
内容 体操・工作など(申込み不要)
持ち物 親子とも上履き

■おやし広場

～お父さんと料理を楽しもう～

日時 5月16日(土) 午前10時～正午
対象 幼児、小学生とその父親
内容 お父さんとクッキング
費用 1人150円
定員 先着10組
申込み 4月30日(木)から費用を添えて児童館で受付

■よちよち広場

児童館では、1歳4か月からの子と保護者を対象に「よちよち広場」を開催しています。ぜひ、お気軽にご参加ください。

日時 5月8日(金)、22日(金)
午前10時30分～11時30分(受付時間は午前10時15分～10時30分)
対象 1歳4か月からの子とその保護者
内容 自由遊びなど(申込み不要)
持ち物 親子とも上履き
※お母さんの話し相手や、幼児と遊ぶボランティア募集中です。

地域内交流！ 始まっています

自然なふれあいが魅力の秘訣！

長瀬一区 ふれあい・いきいきサロン「イックサロン」

「イックサロン」は、長瀬一区ふれあい・いきいきサロン活動グループの愛称。長瀬第一長寿会が立ち上げと運営を引き受けていることから会長の鈴木哲夫さんに話をうかがった。

「イックサロン」では、「楽しむ」「学ぶ」「作る」を活動の基本に据えている。ポピー花見会、給食センターの試食会、荒川の白鳥観察会、埼玉国体のソフトボール観戦などは「楽しむ」。栄養師・保健師による食事・健康講座は「学ぶ」。華うどん打ち、押し花絵はがき、おかめ笹の籠編み、竹のめかい編みは「作る」など、すべての行事は三つの基本に添ったものとなっている。



おかめ笹を使った籠編み

「講師は原則として地元在住の方がたにお願いしています。高齢の先生などは、教えることそのものが心の張りとなり、ご家族から感謝の言葉が伝えられる副産物もありました」と語る。

このほか、長寿会には連絡員制度が設けてあり、お知らせやイベントの準備、すべてに皆さんが協力的で、とても助かっているそうだ。

数年前の「籠編み」では、「半信半疑で参加して来た人が作品を完成させ嬉々として持ち帰りました。講師がしめくりりに手を貸したことも忘れ、胸を張り堂々と。その姿を見るのはとても楽しいものです」と話す。

また、今年の2月、保健センターの協力で実施した「脳年齢チエック」はとても楽しく、実年齢より若い判定で喜ぶ人、老いた判定で口をとがらす人など様ざままで自然に場の雰囲気が高まったという。

「サロンの良い所は、集まって語りあうことが自然にできること。むずかしく考えなくてもさりげなく目的にかなう雰囲気を作り出すことができるものなのです」と鈴木さんは語ってくれた。

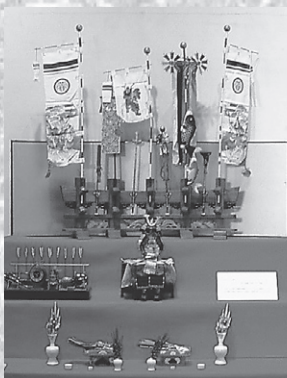
丸石山歴史散歩

文化財シリーズ194

端午の節供の意味と騎射

5月5日は端午の節供です。現在では住宅事情などから大きな幟竿を立てて鯉幟を揚げる家も少なくなりましたが、時期になれば今なお鯉幟の玩具や柏餅が商店に並びます。五月晴れの青空に鯉幟が泳ぐ様子が端午の節供の風景として思い浮かびますが、旧暦に直してみると現在の5月下旬が端午の節供にあたり、本来は梅雨空のそぼ降る雨のなか、武者幟などが立ち並ぶ風景が端午の節供だったということになります。

端午の節は元来、中国から伝わった節供で「端午」は月の初めの午の日のことを指し、5月5日の節供となったのは漢（紀元前202～220年）の時代といわれます。『日本書紀』にはこの日に毒気を祓うため薬狩（薬狩）りといって蓬などを競って採ったことが記され、平安時代には「薬日」とも呼ばれていました。また、邪気を祓うため菖蒲でつくった鬘を被り、これは後に菖蒲青とも呼ばれました。



端午の節供の鎧飾り

端午の節供は毒気や邪気を祓うことが目的だったようで、蓬や菖蒲といった香りの強い香草が使われたのは、湿度の高い梅雨時の腐敗を防ぐ力を持つものとされたのでしよう。

ところで平安時代、朝廷の「端午の節」では天皇が頭に菖蒲鬘を被り近衛による騎射を観る儀式が行なわれていました。近衛とは宮中を警護する近衛府の兵のことで、右近衛府と左近衛府がありました。左右近衛による騎射は、柵で仕切られた馬場で馬を走らせながら弓を放ち、的を射抜くもので、流鏝馬の起源ともいわれています。騎射もまた弓を射ることが邪気を祓うことに繋がっていたため端午の節供に行なわれたのでしよう。朝廷での騎射は、延喜17年（917）に廃止されましたが、流鏝馬を白河上皇などが院の行事として継承し、中世以後、節供との関係は薄くなりましたが武家によって盛んに行なわれるようになりました。

お詫言の訂正

広報もろやま3月20日号13ページ「キラリ輝いています」の記事で、あすなろ会の問合せ電話番号が誤っていました。お詫言の訂正いたします。